

平成27年度第1回宗像市立地適正化計画策定委員会議事録

平成27年12月4日(金) 9:30~11:30

宗像市役所 2階 202会議室

出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
黒瀬 重幸	出	日高 圭一郎	出	辰巳 浩	出
小林 裕美	出	中島 徹也	出	田中 隆一	出
森 眞一	出	今川 泰志	出	宮園 寛治	出
國廣 由佳	出	赤星 健太郎	欠	岩永 和久	出

印は会長、 印は副会長

1. 委員会に関する会議

宗像市立地適正化計画策定委員会規則により、会長が招集することになっている。

- ・第1回の会議であるため、まず委員会に関する会議を開催し、委嘱状の交付や、会長、副会長の選出後審議に移る。

市長からのご挨拶

委嘱状交付

会長、副会長の選出

- ・会長：黒瀬教授、副会長：日高教授

各自自己紹介

2. 立地適正化計画策定委員会

議題1：コンパクトシティに向けた国の動向【背景と方向性】

議題2：都市再生特別措置法の改正【立地適正化計画の作成】

質疑・意見

誘導施設についての定義が記載されており、スーパーマーケットなどが例としてあるが、これは誘導施設が公共施設でなくてもいいということなのか。

- ・誘導施設とは、公共施設に限らず、民間の施設も含んでいる。

都市機能誘導区域外での届け出の対象となる行為として開発行為というものがあるが、これは一般的な土地の区画形質の変更という定義と捉えていいのか。

- ・開発行為は、土地の区画形質の変更と定義づけられている。

議題3：立地適正化計画策定方針・体制・スケジュールについて

質疑・意見

都市をコンパクトにするにあたって重要なインセンティブについて、宗像市が考えているインセンティブのプランを教えてください。

- ・基本的な考えとしては、規制をしていくということではなく、人口密度の高いところ、拠点となりえる周辺に誘導をしていくというものである。他市の先行している事例としては都市の再生というより若い世代の定住を促している。例えば、中古住宅を解体して新築を建てる場合に補助金を出したり、集合住宅の流通促進を図るための援助等が考えられる。

今回の立地適正化計画では強制的に集約をさせるわけではないが、どうやって公共投資、行政サービスの効率化、公共施設の維持管理の合理化を図っていくのか。宗像市の考えている方針を教えてください。

- ・効率化に関しては非常に長い時間がかかると考えているため、少しずつインセンティブを与えていくことにより結果的に効率化を図れるのではないかと考えている。ゆっくり進めていくことで、指定している誘導地域に少しずつ近づき、たとえば学校の統合などの効率化が実現できればと考えている。

議題4：宗像市の現状と課題

質疑・意見

居住誘導区域についてだが、市街化区域から土砂災害危険区域が外れるという手法は理解できるが、それ以外の外れる候補を教えてください。

- ・宗像市では、市街化区域から大きく削らないような方針で考えているが、その中でも外すとすると候補としては、市街化区域内の未利用地、準工業地域の中でも都市機能を集約する際により集約ができない準工業地域などが考えられる。
- ・宗像市は既に人口がある程度密集しているので、市街化区域の人口密度が低い地域は居住誘導区域から外れる候補となるかもしれない。また、基幹交通の発達している区域に誘導するという方向性があるのでその方向性を考慮しながら地域を考えていく。

人口推計に関してトヨタの社会増減がかなり含まれていると思うのだが、それは一時的なもの可能性があるため、今後同じペースで人口が増加することはないと考えられる。人口推計を行う際、社会増減と自然増減についてどのように整理をしているのか。

- ・細かい数値に関しては今現在手持ちがないので答えることができない。
- ・トヨタの社会増減に関しては一時的なものであるため、現実的には推計値より低い数値であることを想定しながら計画を進めていこうと考えている。しかし、立地適正化計画では基本的に社人研での人口推計値を使用するとされているため、マイナスに成りうる要因というのを加味しながら進めていこうと考えている。

将来、人口が 1 万人減少すると推計されているが、D I D 区域はどのように変化するのかを教えてください。

・人口密度の図面で 40 人/ha を下回る地域を説明。D I D 地域から外れる区域が一部出てくることが考えられる。

何もしないと D I D 区域が減少すると推測されるので、本計画はとても重要であり、大変なことだと考えられる。今後人口が減少していくであろう、自由ヶ丘や日の里に都市機能の集約を図ることが重要だと考えられる。そうすることにより、公共交通の需要も生まれるし、人口が集まってくると考えられる。

スクラップアンドビルドという目線はとても重要だと考えられる。

P だけでなく、P D C A で進めることが大事だと考えられる。

財源面がどこまで支援できるのか、時間軸をどこまで設定するのか、誘導策の担い手を明確にするというような視点を入れるべきだと考えられる。

人口が減った地域では、農地の集約などの産業的視点を入れるべきだと考えられる。

議題 5：議事録作成方法、会議の公開について

議事録については、会議の内容を要点で記録し、委員に了承を得た上で公開する。会議は原則公開形式とする。

議題 6：その他（次回開催等）

次回の審議会は平成 28 年 2 月下旬から 3 月上旬を予定しており、早急に日程調整を行う。